



感謝の気持ちを大切に

今日の終業式では、サッカーワールドカップで4大会連続出場を果たした日本代表の長友佑都選手について話をしました。長友選手は国内外で活躍し、輝かしい経歴をもつ一方で、実は苦労人でもあります。小1からサッカーを始めたものの、小3で両親が離婚。中学進学を前に、



地元クラブチームの入団テストに落ちてしまいます。そこで、地元の中学校のサッカー部に入るのですが、中学のサッカー部は荒れていて、学校もさぼるようになったそうです。ゲームセンターに通い始めた頃、当時のサッカー部のコーチが涙ながらに「本気で練習すれば、プロに絶対なれる。」と訴え、長友選手の心を動かしました。その後一念発起した長友選手は、東福岡高校でレギュラー入りしたものの全国的には無名で、明治大学へ進学します。しかし、ケガに悩まされ、試合に出れないことが多く、応援団の太鼓を叩いたこともあるそうです。その後、大学を中退し、プロの道へと進みました。その理由が「母親から女手一つで育ててもらった。朝から晩まで働いている母に楽をさせたい。」という思いだったそうです。長友選手は「恩返しをしたい。恩返しをしなくちゃいけない。そんな『感謝の心』が僕に力を与えてくれる。」と自分の原動力を語っています。私も子供たちに「成長に感謝の気持ちをもちましょう!」と語り、感謝の気持ちをもつことで、①今の自分を生き立ちや過去のせいにせず、前向きになれること、②さらなる目標が生まれること、その2つが相まって「もっと成長できる自分になれる!」と伝えました。成長の陰には、きっとそれを支えている人、見守っている人がいるはずです。子供たちには「感謝の気持ち」を大切にして冬休みを過ごしてくれることを願っています。

2学期お世話になりました

2学期も今日で終業となります。2学期も相変わらずのコロナ禍でしたが、「コロナ禍だからできない」ではなく、「コロナ禍でもできる工夫」をしながら、音楽会や修学旅行、宿泊教室、授業参観、懇談会と学校行事を予定通りに実施することができ本当によかったと感じています。熊本の感染者数は増えており、本校でも陽性者の数はまだまだ高止まりの傾向にあります。全国的にも感染者が増え、東京では、新型コロナとインフルエンザの同時流行「ツインデミック」が現実味を帯びてきました。

この冬休み中に、感染が増えないことを祈ると共に、自分が感染しないように感染対策を再度しっかりおこない、楽しい年末、年始をお迎えください。保護者・地域の方々におかれましては、2学期も本校の取組にご理解とご協力いただき、本当に感謝しています。